

殺虫剤の土壤施用によるカーネーションを加害するアザミウマの防除

葛西辰雄・森安良直

1. ハウス栽培のカーネーションでは、アザミウマによる被害が大きいが、成・幼虫の発消長を調査した結果、密度は栽培後期において増大し、花に対する加害は幼虫が主体であることが判明した。
2. 10種類の浸透性殺虫剤を供試し、土壤施用によるアザミウマの防除効果を検討した結果、ジメトエート乳剤1,500倍液の m^2 当り5 μ とオルトラン粒剤の m^2 当り10gの施用は、効果が極めて高く、効果の持続期間も約40日と長かった。この2種薬剤の土壤施用は薬害もなく、省力的であるので、実用性の高い防除技術であると考えられる。
3. 薬剤の土壤施用の時期は、成・幼虫の発消長と薬剤の効果持続期間からみて6月初旬であると考えられるが、この点についてはさらに検討中である。